

産総研と地域企業

産業振興で連携



54

汀線科学研究所

微粒子標準

PM2.5に代表される空気中の微粒子組成や、その他の性状は、健康への影響の問題が千差万別であり、非常に複雑な対象である。一方、半導体、精密電子工業、製薬など

密電子工業、製薬などの産業分野では、直接、製品の品質に影響

管理が求められる。単位が異なるが、粒子数に成り気候影響に関わる体積中の粒子数が粒径

簡単に大粒径微粒子測定

なく、粒子を発生させる、参照器で測定した数値と比較して校正される。ところが従来

は、1分計(マイクロ術総合研究所の開発した一定数の粒径のそろった微粒子を発生させ

安定して発生させること技術に注目し、インクジェットエアロゾルを、1滴に対して1個

単一粒径の発生装置の名称で昨年12月に製品化を行い、その後も継続して適用技

発生器型標準

この装置により参照器を用いた従来の測定法では難しかった大粒径粒子測定の正確な校正が簡単にできるようになった。また精度管

理や性能確認だけではなく、微粒子測定装置の設計段階でも利用できる。微粒子測定装置

では測定法の原理を実現するよりも、むしろ粒子

インクジェットエアロゾル発生器(IAG-ASS)

「一言メッセージ」
産総研物質計測標準研究部門粒子計測研究グループ主任研究員 飯田 健次郎

エアロゾル中の粒子は容器に入れると内壁に沈着するためボンベに入った標準物質として供給できない。この現状を、現場で正確な数のエアロゾル粒子を発生することで解決する新しい技術である。応用分野の拡大を期待する。



インクジェットエアロゾル発生器

「一言メッセージ」
産総研物質計測標準研究部門粒子計測研究グループ主任研究員 飯田 健次郎
エアロゾル中の粒子は容器に入れると内壁に沈着するためボンベに入った標準物質として供給できない。この現状を、現場で正確な数のエアロゾル粒子を発生することで解決する新しい技術である。応用分野の拡大を期待する。